

令和 5 年度

事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

一般財団法人 防災研究協会

I 実施事業等

1. 助成金事業

(1) 災害の防止並びに軽減に関する研究の助成

①若手研究者への研究助成

当法人が開設するホームページに掲載し、国内外に公募したところ11名から応募額(5,016千円)があり、業務運営委員会において審査した結果、6名に対して研究の助成を行うことを決定し、総額2,000千円の助成金を交付した。助成対象者等詳細は下表のとおりである。

氏名	所属等	研究課題	交付額 (円)
植村 佳大	京都大学大学院工学研究科 助教	部材取替により耐震性能の新陳代謝および早期復旧が可能なメタボリズム鋼製橋脚構造の実現	350,000
辻 勲平	東北大学大学院工学研究科 助教	環境調和型減災対策を牽引する流体・地盤・樹木連成数値解析に向けた基礎研究	350,000
山田 諒	京都大学大学院工学研究科 博士後期課程	詳細な計測に基づく鉄筋コンクリート造耐震壁の損傷評価指標の向上	350,000
彭 俊雄	京都大学大学院工学研究科 博士後期課程	継手の鉛直せん断ずれに伴う鋼管矢板基礎の水平抵抗特性変化の実験的解明	350,000
辛 翔	大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程	台風時の高波浪による礫浜海岸の急激な地形変化のメカニズムに関する研究	300,000
堤 雄大	大阪大学大学院工学研究科 博士後期課程	石油貯蔵施設の津波被災形態モデルを組み込んだ石油移流拡散解析モデルの開発	300,000
計	6名	6件	2,000,000

②研究発表会等共催（後援）の助成

当法人が開設するホームページに掲載し、国内外に公募したところ3件の応募（1,400千円）があり、業務運営委員会において審査した結果、3件に対して助成することを決定し、総額800千円の助成金を交付した。助成対象等詳細は下表のとおりである。

名 称	開催日	申請者	助成額（円）
第42回日本自然災害学会学術講演会・令和5年度自然災害に関するオープンフォーラム「災害に向けて、何をどうするか？」	2023/9/17～ 2023/9/18	金沢大学融合研究域 准教授 藤生 慎	200,000
第27回水シンポジウム2023 in さが	2023/8/3～ 2023/8/4	第27回水シンポジウム 2023in さが実行委員会 実行委員会企画部会長 矢野 真一郎	200,000
京都大学防災研究所研究発表講演会	2024/2/21～ 2024/2/22	京都大学防災研究所 所長 中北 英一	400,000
計		3 件	800,000

なお、これら①及び②の事業に要する資金を調達するため、防災調査研究助成基金のうち3,000千円を取り崩した。

③奨学寄附

本助成金事業の主財源は、「その他会計（受託研究事業）」から生じる剰余金であるが、本年度においては、本助成金事業を実施するための十分な財源の確保が難しかったため、実施を見送ったものである。

2. 知識普及事業

（1）災害の防止並びに軽減に関する知識の普及

①研究報告の作成

研究論文（報告課題数 21 件）を取りまとめ、「研究報告第 46 号」（別冊）を作成した。

②ホームページによる公表

上記の「研究報告第 46 号」に収録した 21 編の研究論文を、当法人が開設するホームページに掲載し、広く内外に公開した。

(2) 研究報告に係る原稿執筆等謝金の支給

「研究報告第 46 号」の作成及び公表のため、原稿執筆等謝金として 3 件 245 千円を支給した。

3. 自主研究事業

(1) 災害の防止並びに軽減に関する自主研究（課題研究等）の実施

下表のとおり、合計 10 件、研究受託に基づかない自主研究を実施した。

研究分担課題	担当者
土石流災害の防止軽減に関する研究	水山高久
土砂災害の危険に曝された脆弱な居住圏における災害危険度軽減のための危険度予測の研究	佐々恭二
岡山県南部の基盤構造モデルの改良と地震災害予測に関する研究	赤松純平
地すべり発生機構と移動機構の解明	末峯 章
気象災害に関する研究	林 泰一
流域治水に関する研究	中川 一
土砂災害の機構と対策に関する研究	江頭進治
構造物の安心・安全と長寿命化・修景に関する研究	家村浩和
災害復旧・復興における地盤環境の保全	嘉門雅史
環境エネルギー分野における機械学習の適用研究	松岡俊文

II. その他事業

1. 受託研究事業

(1) 災害の防止並びに軽減に関する調査及び研究

下表のとおり、合計 39 件、52,913,332 円の研究委託を受け、調査及び研究を実施した。

調査研究事項	担当者
(令和4年度から継続研究の分)	
¹⁰ Be 年代測定を用いた断層活動性評価手法の高精度化に関する研究 2023 年度	松四雄騎
赤外線を用いたトンネル切羽の粘土鉱物量評価手法の開発(2023 年度)	小池克明
メタボリズム耐震橋脚構造のプレキャスト部材性能検証(その5)	高橋良和
高精度粒子法の港湾施設設計への適用研究(その2)	後藤仁志
雨畑地区流域調査研究(2023 年度・上空からの地形地質調査)	井上素行
制振機構を有するケーブルにおける張力等の算定に関する共同研究	古川愛子
盛土品質全量管理データの処理・活用技術の開発	肥後陽介
傾斜屋根上に設置された発電用太陽光パネルに加わる風圧力の解明-追加実験	丸山 敬
軟弱地盤の改良に関する研究(その15)	嘉門雅史
合わせガラスのミサイル衝撃試験(追加試験)	丸山 敬
モジュラーチ工法の有効性に関する研究(その7)	澤村康生
砂防堰堤の設計施工の合理化に関する研究(その9)	水山高久
流木止設備の劣化メカニズムと機能強化に関する検討(その5)	角 哲也
盛土下部に敷設した水平ドレーンの液状化低減効果に関する数値解析	肥後陽介
雨畑地区流域調査研究(2023 年度・文献調査および粒度分布解析)	井上素行
交点部を有するケーブルにおけるモード形状を用いた張力算定に関する共同研究	古川愛子
海外水力開発に係る斜面解析モデルに関する検討委託(2023 年度)	岸田 潔
地すべり災害リスクの理解と軽減に関する研究	佐々恭二
その他1件	
(令和5年度から新規研究の分)	
埼玉県川口市地域防災計画改定の在り方に関する研究	林 春男
鋼管矢板の施工における品質確保に関する検討	木村 亮
地域が主体となった小水力開発に関する調査研究のアドバイザー業務	井上素行
太陽光発電パネルに加わる風力の屋根勾配による変化の解明	丸山 敬
PC-壁体を用いた河川堤防「ラストウォール」に関する技術的コンサルティング	肥後陽介
PC-壁体を用いた河川堤防「ラストウォール」に関する技術的コンサルティング	音田慎一郎
清水建設㈱の現場と開発技術に関する指導	木村 亮

CCS/CCUSに関する大学の研究動向調査	武川順一
歪測定モジュールのアナログ部開発	丸山 敬
各種地盤改良に関するメカニズムや効果確認手法の検討	肥後陽介
真空圧密ドレーン工法の施工法の高度化に関する研究	木村 亮
海底マスマーブメントの分類指標等に関する検討	松四雄騎
鉄道構造物の効率的な維持管理手法について	木村 亮
河川堤防の防災にかかる技術研究開発	肥後陽介
被圧地下水と不透水層を有する地盤の流動実験	一井康二
大口径モノパイル基礎の地震時挙動に対する FLIP3D プログラムの適用性検証	上田恭平
局地的大雨に対応した事前通行規制基準の『時間的』『空間的』高度化	藤本将光
噴石と大気間の熱伝達率の測定	丸山 敬
補強土壁やアーチカルバート等の地盤構造物における耐震性評価手法に関する研究	澤村康生
水槽を使った密度流の測定	丸山 敬

(2) 災害の防止並びに軽減に関する研究の助成並びに知識の普及に係る事業に対する支援

① 奨学寄附

災害の防止並びに軽減に関する研究助成の一環として、下表のとおり奨学寄附を行った。

(円)

寄附先	件数	金額
国立大学法人京都大学	2	856,050
国立大学法人横浜国立大学	1	800,000
国立大学法人新潟大学	1	2,800,000
国立大学法人広島大学	1	200,000
計	5	4,656,050

② 知識普及事業の強化

「研究報告第46号」の原稿執筆等謝金を支給するために必要な資金 245 千円を、知識普及事業へ繰り入れた。

Ⅲ. 総務事項等

令和6年3月31日現在

1. 会議等の開催

(1) 評議員会 令和5年6月21日(水) 開催(オンライン方式)

(2) 理事会 令和5年5月22日(月) 開催(オンライン方式)

令和6年3月18日(月) 開催

(3) 委員会

①業務運営委員会(奇数月の第2金曜日)年6回開催

但し、1月は第3金曜日に開催

※メール審議にて開催(3月のみ対面開催)

2. 評議員・役員等

(1) 評議員 [5名]

評議員会会長 池 淵 周 一

評議員 寶 馨

〃 栗 田 秀 明

〃 合 川 正 弘

〃 藤 田 正 治

(2) 役員 [理事3名、監事2名]

理 事 長 中 川 一

総務理事

会計理事 木 村 亮

理 事 石 原 和 弘

監 事 岡 田 憲 夫

〃 田 村 京 市

(3) 研究員

常勤研究員 1名

非常勤研究員 125名